

第三章 岐阜まつりの組織と行事

第一節 はじめに

岐阜まつりは、伊奈波神社をはじめとする、多くの団体によって成り立っている。本章では、岐阜まつりに関わっている団体の組織について、関係者への聞き取りや新聞記事、文献資料から明らかにしたい。

第二節 伊奈波神社の組織

(一) 伊奈波神社の組織

令和六年度の伊奈波神社の組織の内訳は、宮司一名、禰宜一名、権禰宜六名、出仕二名、巫女七名、囑託一名である。

おもな氏は、岐阜市の金華、京町、明德、本郷地区の住民が多くを占めている。現在の神社の運営は、代表役員である伊奈波神社宮司および氏子総代の代表である責任役員四名からなる責任役員会と、責任役員会にすべての氏子総代二十名（令和六年は二名欠員）を加えた役員・総代会によって行われている。責任役員会は必要に応じて開催され、神社の決算報告、予算や諸事の決定を行っており、役員・総代会においては、責任役員会にて決定した事項を協議し、これを承認している。責任役員の任期は三年で再選がある。

(二) 伊奈波神社と岐阜まつり

伊奈波神社の責任役員会や、役員・総代会は、これまで岐阜まつりの在り方

についても議論を行ってきた。例えば、岐阜まつりの実施日の変更（平成七年（一九九五）、清影車のからくり復元（平成八年）、神幸祭における伊奈波・金・檀森三社による合同祭祀（平成十九年）など、重要事項の決定を行っている。宵宮で曳行される山車は、かつては各地区が所有していた。昭和三十七年（一九六二）、経済的理由により管理が難しくなったため、安宅車を所有していた本町五丁目、山車を伊奈波神社に奉納した。この後、若戎車、清影車、踊車もおそらく昭和四十年代前葉に伊奈波神社に奉納されたと思われる（五八頁参照）。現在は、まつりの時に伊奈波神社が各地区・団体に貸出す形をとっており、メンテナンスなどは各地区・団体が伊奈波神社と協議の上で行っている。宵宮の一週間前の土曜日に、各団体の関係者が決められた時間に伊奈波神社参集殿に集まり、団体ごとに奉告祭が執り行われる。ここで、山車曳行の安全を祈願している。

第三節 岐阜まつりの組織

(一) 岐阜祭実行委員会

岐阜祭実行委員会は、岐阜まつりをとおして市民の集い・地域の振興のための活動を行う団体で、事務所を伊奈波神社に構える。委員は伊奈波神社役員・総代会の構成員からなり、毎年岐阜まつりの期日が近づくたびに開催されている。



写真 3-1 岐阜まつり宵宮実行委員会
（令和六年二月二十二日）



(二) 岐阜まつり宵宮実行委員会

岐阜まつり宵宮は、かつては伊奈波神社が主催して実施していた。平成七年（一九九五）、宵宮の山車、神輿の入場や演出の調整、会場づくりなどの運営をプロデュースする組織として、岐阜青年会議所OBと自治会連合会長をはじめとする地元住民の代表者、神輿・山車等宵宮に参加する団体の代表者などによる岐阜まつり宵宮実行委員会が組織された。

令和六年の岐阜まつり宵宮実行委員会の構成員は、委員長、相談役各一名、副委員長四名、会計、監査各一名、幹事十六名、伊奈波神社神職二名で、これに岐阜市経済部職員が加わっている。

委員会はまつり前に二回、まつり後に一回、伊奈波神社参集殿にて開催される。まつり前の委員会では、スケジュールの確認、委員各自の役割分担、前年の決算と当年の予算、宵宮のポスターの配布先・配布量、当日の各山車、神輿の動き、関係先への申請書・依頼の提出、機材・物品の調達などについての審議と、宵宮の「のぼり」「提灯」の奉賛の呼びかけなどが行われ、まつり後には収支報告を含めた反省会が行われている。

第四節 各山車保存会・運営組織と自治会

(一) 安宅車奉曳実行委員会・金華安宅車支援会と金華地区

1 安宅車

安宅車は、もともと車之町（大正五年（一九一六）に本町五丁目に改称）が所有していた。地元では、安宅車は江戸時代後期から幕末にかけての作（注1）で、明治二十一年（一八八八）の大改修の時に弁慶、義経のからくり山車に改装し、能「勧進帳」を演じることから、作中に登場する安宅関にちなみ、「安宅車」

と呼ばれるようになったと伝わっている。また、明治二十四年の濃尾震災、第二次世界大戦による焼失を免れたとされている。

山車蔵は、かつて本町五丁目内の木造町へ続く道路との丁字路付近に存在したが、戦時中の建物疎開のために撤去されたという（注2）。

2 安宅車奉曳実行委員会

安宅車の運営は、おそらく昭和四十三年以来輪番制が採用されている（注3）。すなわち、金華地区の自治会を図3-11のように十六の地区に分割し、一年につき二地区ずつが担当する（表3-1）。かつては一年につき一地区のみの担当であったが、お囃子や車力などの担い手不足の対策として、平成十一年（一九九九）から現在の体制になった。

担当となった自治会は、安宅車奉曳実行委員会（以下、実行委員会）を設立する。実行委員会の設立時期は、早いところでは前年のまつり終了直後の四月に設立するところもあるが、おおむね七月前後に立ち上げる自治会が多いようである。

実行委員会の役員構成は各自自治会により多少の差はあるものの、おおむね実行委員長のもと、企画・総務係、山車運行係（舵方^{かじかた}）、器具・電線係、接待・救護係、交通・警固係、衣装係、お囃子世話係、お囃子演奏係、子ども会連絡係、からくり係の各係の責任者からなる。

実行委員会が行う事前の準備として、曳行のルート決め、回覧板や子ども会を通じての舵方、車力、お囃子の人員の募集がある。また、祝儀や各戸からの負担金を集めるなどの資金調達を行う。

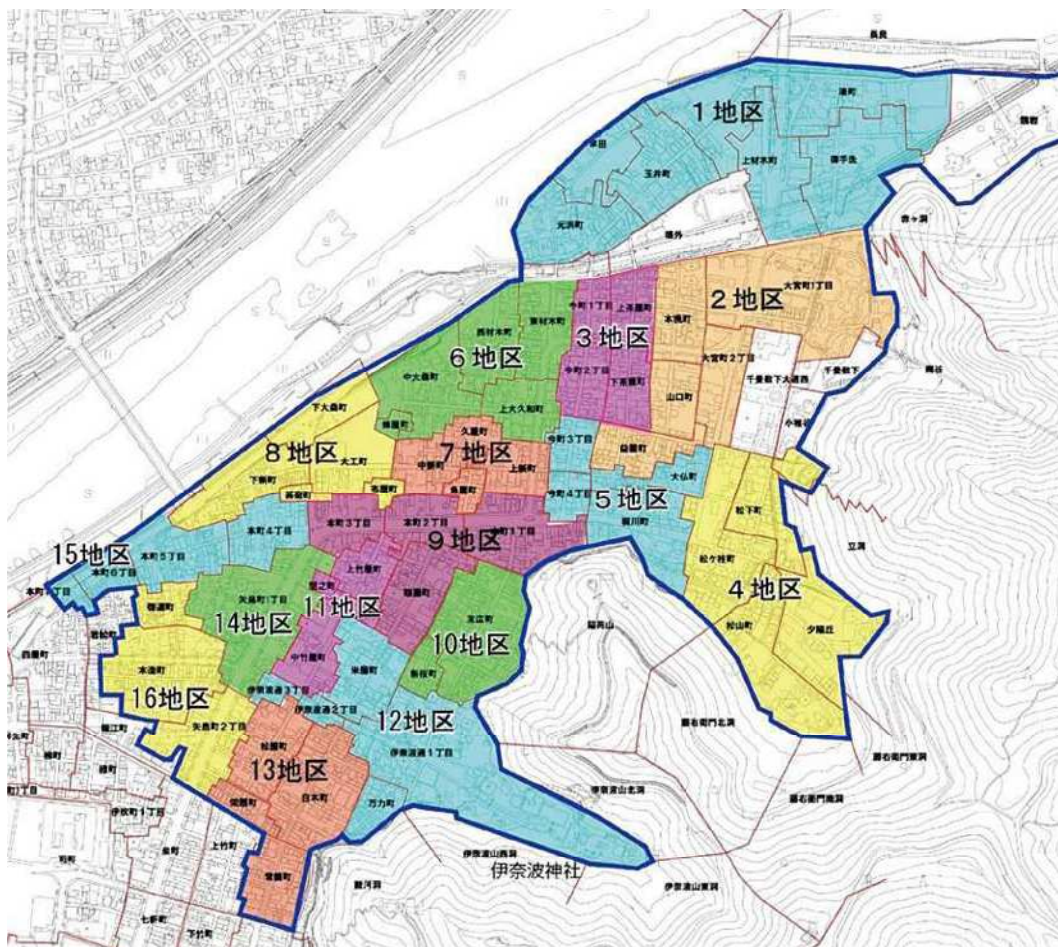


図 3-1 金華地区地図

①	1 地区	湊町 上材木町 御手洗町 玉井町 元浜町 川畔町 ライオンズマンション メイツ長良川 ウェリスリビオ岐阜公園
	3 地区	上茶屋町 下茶屋町 今町一丁目 今町二丁目
②	2 地区	大宮町一丁目 大宮町二丁目 木挽町 山口町 益屋町
	4 地区	松下町 松山町 夕陽ヶ丘 夕陽ヶ丘県営住宅 松ヶ枝町北組 松ヶ枝町南組 松ヶ枝町東組
③	5 地区	今町三丁目 今町四丁目 大仏町 梶川町
	6 地区	東材木町 西材木町 神大久和町 中大桑町 蜂屋町
④	7 地区	久屋町 魚屋町 上新町 中新町
	8 地区	大工町 甚衛町 下大桑町 下新町 布屋町
⑤	9 地区	本町一丁目 本町二丁目 本町三丁目 靱屋町 ユーハウス岐阜
	10 地区	末広町北組 末広町南組 末広町西組 新桜町
⑥	11 地区	上竹屋町 中竹屋町 キャッスルハイツ 間之町 大和町
	12 地区	米屋町 ユーフォリア岐阜米屋 伊奈波通一丁目 伊奈波通二丁目 伊奈波通三丁目 万力町
⑦	13 地区	白木町 常磐町 松屋町 栄扇町
	14 地区	矢島町一丁目上組 矢島町一丁目中組 矢島町一丁目下組
⑧	15 地区	本町四丁目 本町五丁目 本町六丁目 本町七丁目
	16 地区	矢島町二丁目 啓運町 木造町

表 3-1 金華地区の輪番



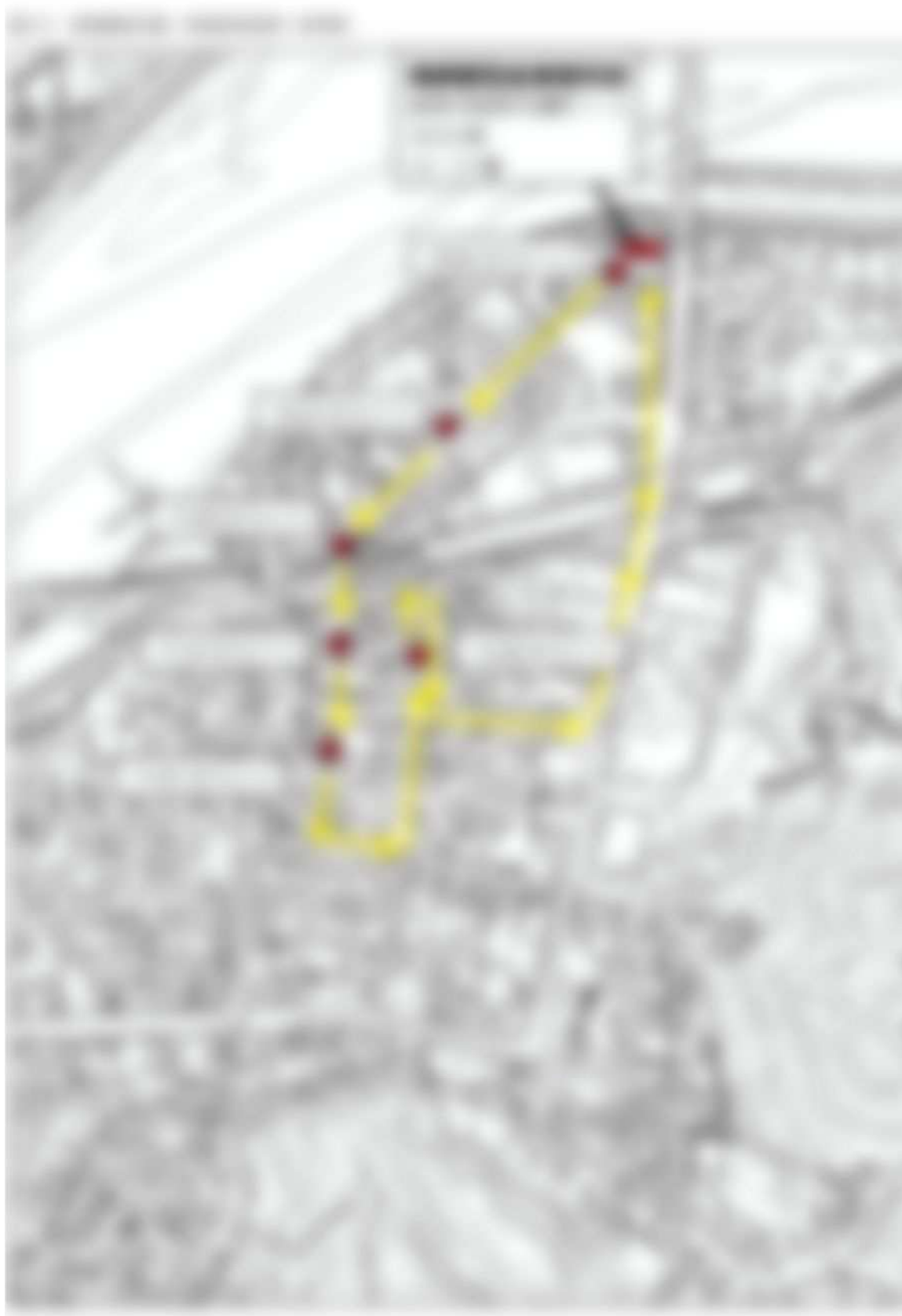
3 金華安宅車支援会

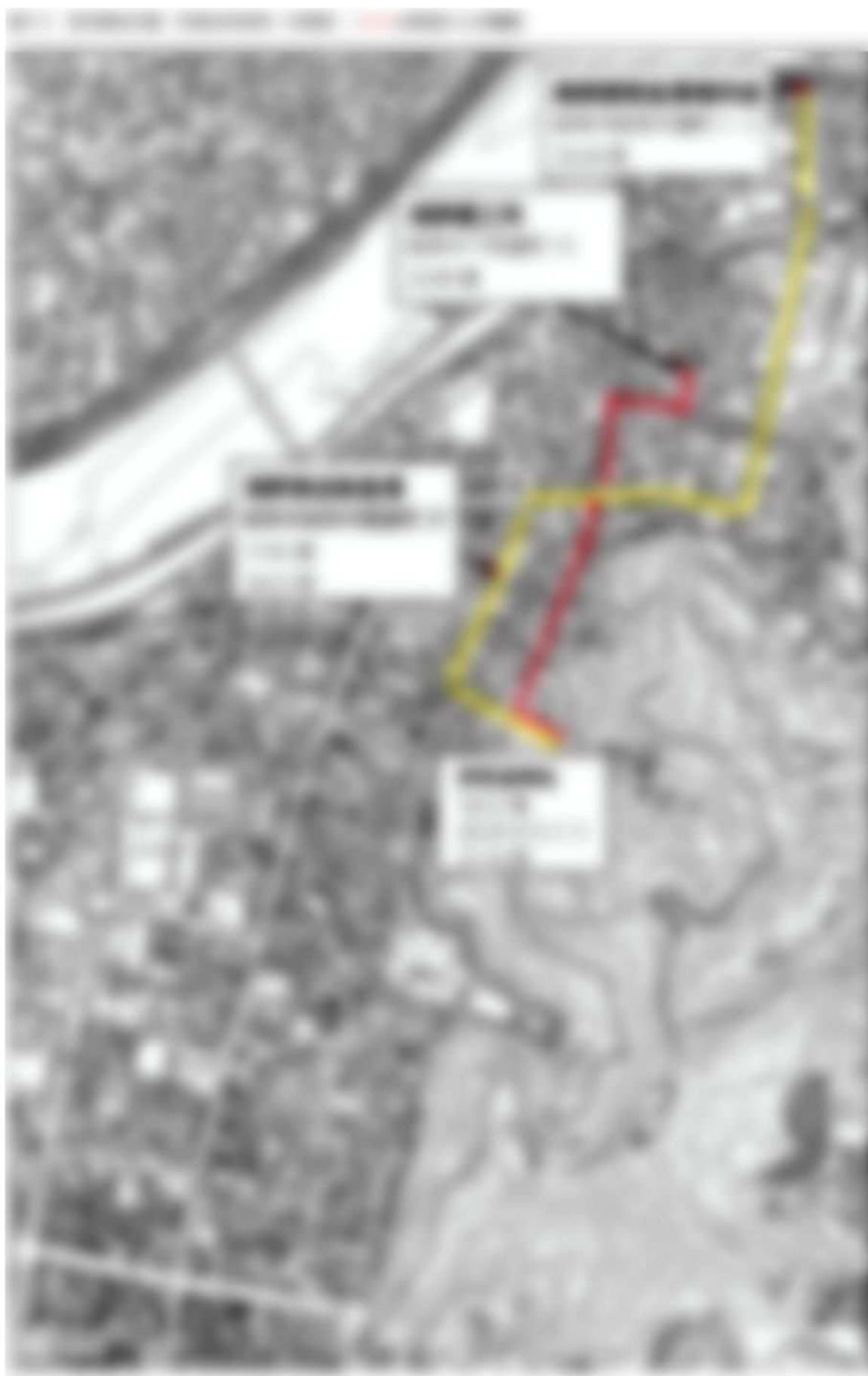
金華地区における輪番制のメリットとして、地区の子どもの多くが小学校在学中に一度はまつりに関わることができ、安宅車を継承する風土や郷土への愛着を醸成していることが挙げられる。一方、毎年参加する人員が変わり、運営をはじめ、お囃子やからくりの実演、山車の用意や取り扱いなどのノウハウの積み重ねが困難であるという一面も持つ。これは、輪番制の採用以来長年の課題であった。

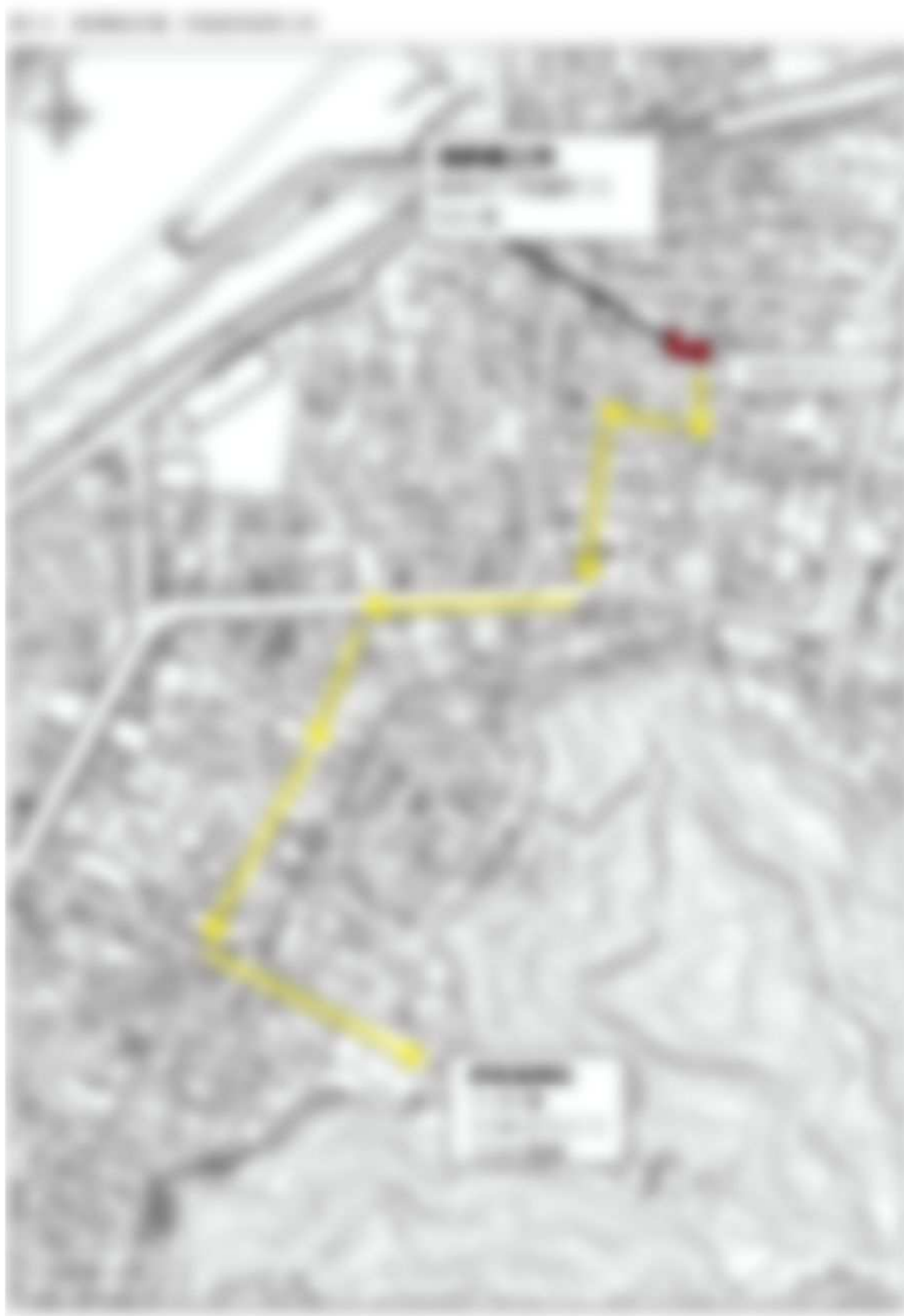
これらの課題を解決するため、令和元年（二〇一九）十二月、金華自治会連合会地区長や各地区の安宅車奉曳実行委員会委員経験者が集まり、安宅車の奉曳をサポートする団体の設立に向けた会合が開かれた。その結果、翌年に金華安宅車支援会（以後、支援会）が発足した。支援会は、規約によれば、「安宅車奉曳実行委員会活動を支援し、その要請に応じて奉曳事業に補完的に取り組み、七百年の伝統を誇る岐阜まつり安宅車奉曳事業の伝統護持と向上発展に努め、よって地域のコミュニティづくりに寄与すること」（原文ママ）を目的としている。

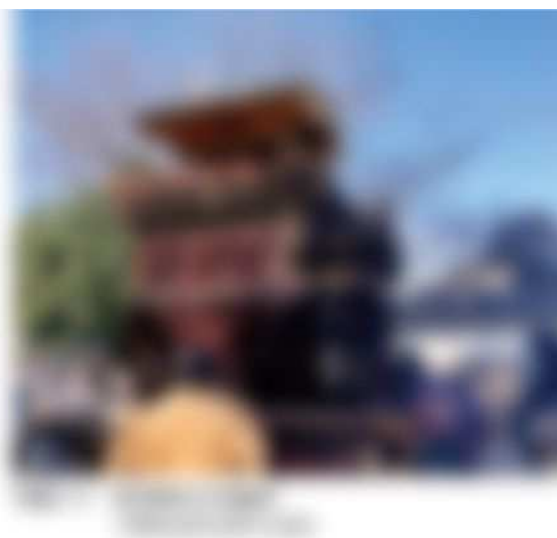
役員は、会長一名、副会長二名、事務局長一名、事務局次長一名、書記一名、会計一名、部会担当若干名、常任理事若干名、監事一名からなる。役員の任期は二年で、前年・前々年度に安宅車の奉曳を行った地区から役員が選出され、順番に全地区が対象となる。

また、支援会の下部組織である専門部会（山車運行・舵方・お囃子・からくり人形・交通警備・器具電線・接待救護・衣装・記録等）は、毎年の奉曳事業経験者の中から希望者に加わってもらう登録メンバー制を採用し、順次その年から当該年度の不足する部門にメンバーを派遣し支援している。最近では、からくり人形の操作方法や演技内容を動画にまとめてマニュアル化する取り組みを行っており、各地区における後継者の育成に努めている。











(二) 岐阜若戎車奉曳会と明郷校区

1 若戎車

若戎車は、蛭子命ひるこのみことのからくりが山車に搭載されていたことから、もともと「蛭子車」と呼ばれていたが、伊奈波神社では、すでに昭和四十六年に「若恵比寿」という呼ばれ方がされており（注4）、現在では「若戎車」と一般的に呼ばれている。

現存する若戎車の建造年代は定かではない。地元では、もともとは加納本町三丁目の山車で、享和二年（一八〇二）に建造され、濃尾震災後に岐阜市金屋町に移ったと伝わっている。過去の新聞記事によると、金屋町は昭和三十五年に山車を曳いた（注5）ことがわかっているのが最後で、その後は昭和四十二年に今沢町が曳いたと思われる新聞記事（注6）がみられる。翌四十三年、「明德」地区によって曳かれ（注7）、現在にいたっていると思われる。

2 岐阜若戎車奉曳会

若戎車の運営は、安宅車、清影車のような輪番制を採用しておらず、岐阜若戎車奉曳会（以後、奉曳会）が一括して行っている。比較的人れ替わりがみられるお囃子方や楯方たてかたの人員などをあわせると、年ごとに入れ替わりがあるものの、およそ百名ほど在籍している（令和七年三月現在）。お囃子や楯方などの人員は毎年募集を行っており、近年では、かつてお囃子を経験した子どもたちが大人になって帰省し、山車奉曳に加わる好例が出てきた。また、奉曳会の会員は、以前は明德地区の住民やその出身者や縁者などから構成されていたが、平成二十四年に明德小学校が本郷小学校と合併して明郷小学校が発足したことを機に、会員の対象地域は本郷地区にも広がられた。

奉曳会は、山車の曳き出し、からくり人形の操作、お囃子の演奏など、若戎車曳行に関するあらゆる運営を行っている。

からくり人形の操作を行う人形方、お囃子を演奏する囃子方、山車を曳く楯

方の各セクションには、長年の経験者が多数在籍しているのが特徴である。

また、若戎車の歴史を重んじ、資料や調査に基づいた復元を試みていることも、奉曳会の特徴として挙げられる。お囃子は、かつては能管の音色を収録したテープをスピーカーによって流し、地域住民が指導した子どもたちによる縮太鼓と大太鼓の演奏を加える形で行われてきた。平成二十四年から、お囃子の生演奏の実施に向けて岐阜市内外の山車祭を聞き取りや文献資料などによる調査を行い、同二十七年に明郷小・岐阜中央中の児童生徒二十五人が小鼓と太鼓を、保護者十名が笛を担当するかたちで、生演奏を実現させた。

[illegible]





写真 10-10-1 展示風景



写真 10-10-2 展示風景



写真 10-10-3 展示風景



写真 10-10-4 展示風景



写真 10-10-5 展示風景



写真 10-10-6 展示風景



(三) 清影車せいえいしゃからくり保存会ぼぜんかいと京町地区

1 清影車と京町地区

清影車は、もともと金華地区の玉井町が所有していた山車である。地元では、先代の清影車は江戸時代後期に製造されたものの、濃尾震災で焼失したと伝えられている。現存する清影車について、明治三十六年（一九〇五）に湊町、玉井町、元浜町の三町が共同で建造し、翌三十七年に完成したことを記した棟札が残されている。

新聞記事によると、昭和四十二年に清影車を曳いたのは「川原（湊、元浜、玉井町合同）」で、翌四十三年には「京町校下」（ただし、山車名は不記載）が初出であった。同四十五年には「京町四」が曳行している（注8）。記事が正しければ、このことから、輪番制が採用されていた可能性があり、翌年の伊奈波神社社務日誌には、金華校下が清影車を曳き、安宅車を曳いた団体（後述）として、「京町校下 西野町五丁目 北野町 天神町南 九丁内 第五、六地区」と記載されている。

清影車における輪番制は、京町地区を七地区（五地区と六地区は合同）に分割（表2、図2）し、六年に一度担当することになっている。すなわち、京町地区の子どもたちは、小学校在籍中に、必ず一度はお囃子を経験することになっている。また、清影車の巡行ルートやからくりの披露場所の策定も、担当の地区が行っている。

からくり人形は、彦火々出見命、豊玉姫、弊振り人形の三体を搭載し、能「玉井」の一場面を演じている。これらのからくり人形は江戸時代に作られたが、昭和三十四年（一九五九）の伊勢湾台風等の水害で被災してしまったという。以後は木偶人形が乗せられるのみでからくりは行わなかった。

平成四年（一九九二）、金華地区山車の交換曳行がなされた。この後、安宅車を曳いた経験から、清影車にもからくり人形がほしいという意見が地元の間

で高まった。この機運を背景に、同八年に京町地区の有志が伊奈波神社に清影車のからくり人形の復元を要請したところ、八月に開催された伊奈波神社の役員・総代会において承認され、製作が行われることとなった。平成十年にからくり人形が完成し、当年の岐阜まつりにおいて、三十八年ぶりに「玉井」が披露された。

2 安宅車と清影車の入れ替え

前述のとおり、もともと安宅車は本町五丁目、清影車は湊町・元浜町・玉井町が曳いていたが、おそらく昭和四十年代に金華地区が安宅車、京町地区が清影車を輪番で曳くようになり、現在にいたっている。例外として、昭和四十六年、五十八年、平成四年には、安宅車と清影車を入れ替えて曳いている。地元では、清影車の元の所有者が金華第一地区の玉井町・湊町・元浜町だったため、ここが山車の担当になったときに安宅車と清影車を入れ替えたといわれており、昭和五十八年に金華第一地区が担当した年に安宅車と清影車を交換している。実際のところは、その他の地区が担当した時でも入れ替えた年があったようである。例えば、昭和四十六年には、松屋町・白木町・栄扇町・常磐町の第十三地区が、平成四年には、久屋町・魚屋町・上新町・中新町の第七地区が清影車を曳いている。



写真 3-14 安宅車山車蔵に保管されている「金華校下 清影車」招き札

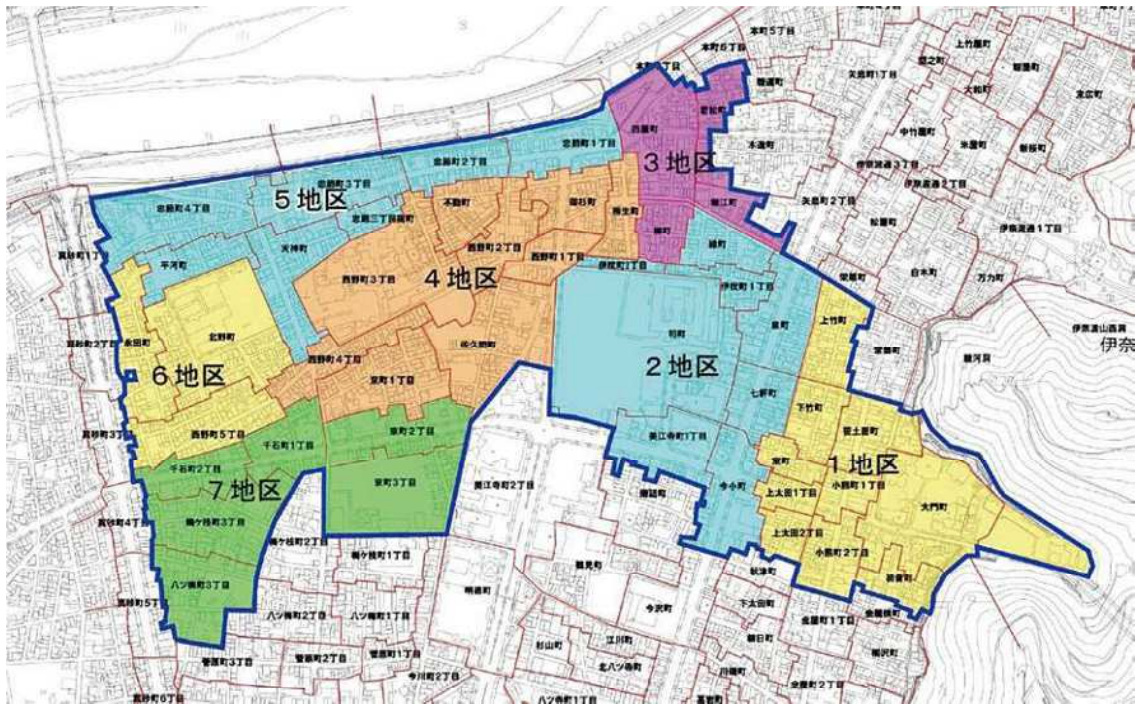


図 3-6 京町地区地図

前述の平成八年における役員・総代会の席上において、当時の宮司である宇都宮正氏より保存会を設立する提案が出され、からくり人形の復元品が完成した平成十年に、京町地区住民の有志によって清影車からくり保存会（以下、保存会）が立ち上げられた。保存会は、からくり人形の操作を担うほか、山車の

3 清影車からくり保存会

①	1 地区	上竹町、下竹町、室町、笹土居町、上太田一丁目、同二丁目、小熊町一丁目、同二丁目、鶯谷町、大門町、初音町、鶯谷
②	2 地区	緑町、伊吹町一丁目、同二丁目、司町、泉町、七軒町、今小町、美江寺町一丁目
③	3 地区	若松町、四屋町、柳町、柳生町、堀江町
④	4 地区	不動町、御杉町、西野町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、佐久間町、京町一丁目
⑤	5 地区	忠節一丁目、同二丁目、同三丁目、同三丁目南町、同四丁目、平河町、天神町
⑥	6 地区	北野町、永田町、西野町五丁目
	7 地区	千石一丁目、同二丁目、京町二丁目、同三丁目、梅ヶ枝町三丁目、八ツ梅町三丁目

表 3-2 京町地区輪番制



管理、輪番当該地区の子どもたちに、お囃子の稽古を指導している。

現在の保存会員は、京町地区などの有志から成り、まつり当日に関心を持った者への勧誘や、会員の友人等の紹介等による加入を行っており、会員の増加に努めている。

● 地区別活動概要

岐阜市の各地区では、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

● 地区別活動概要

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

● 地区別活動概要

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

● 地区別活動概要

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

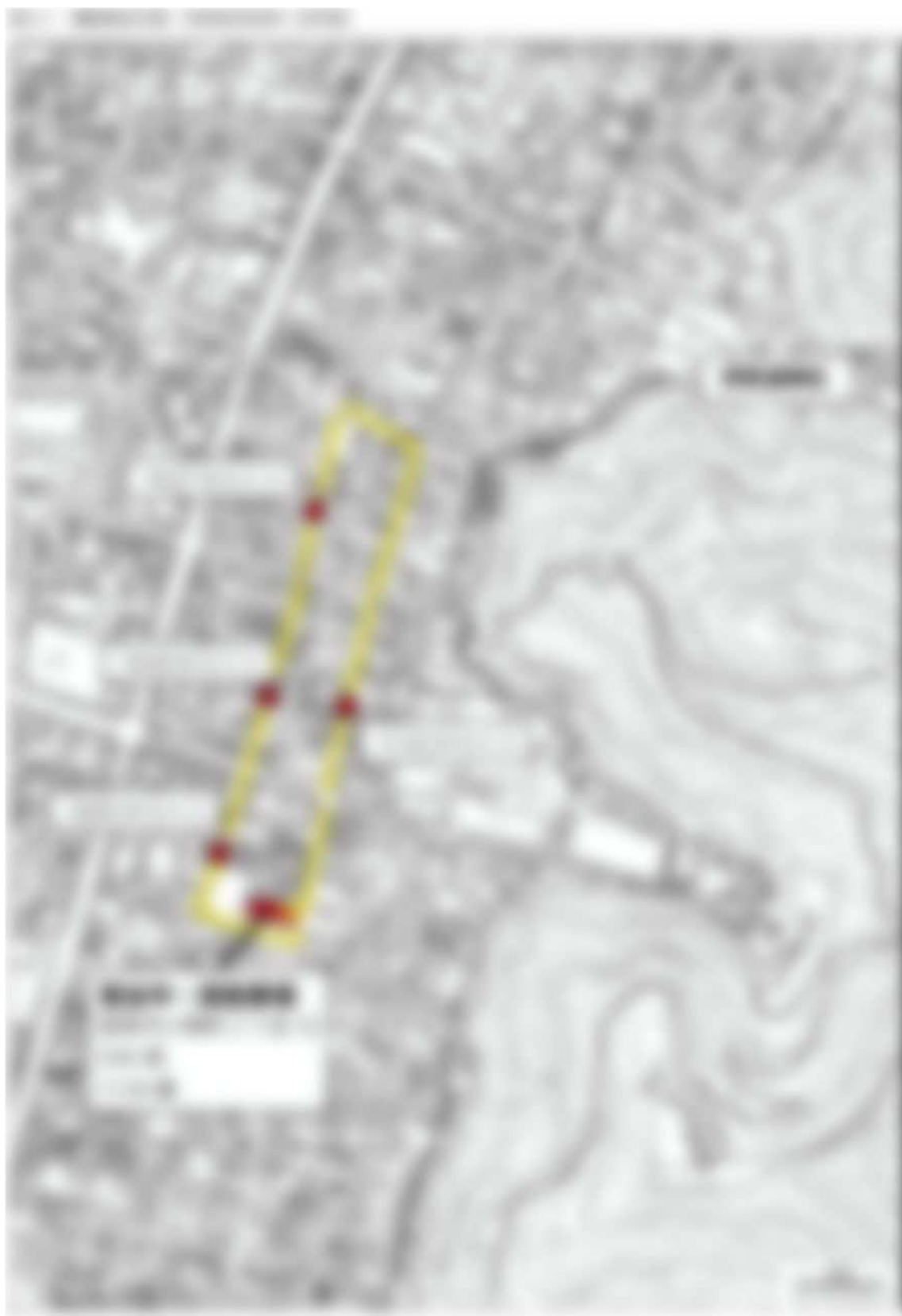
お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。また、お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。

● 地区別活動概要

お囃子の保存会や、お囃子の愛好会などがあり、お囃子の稽古や、お囃子の演奏会などを行っています。



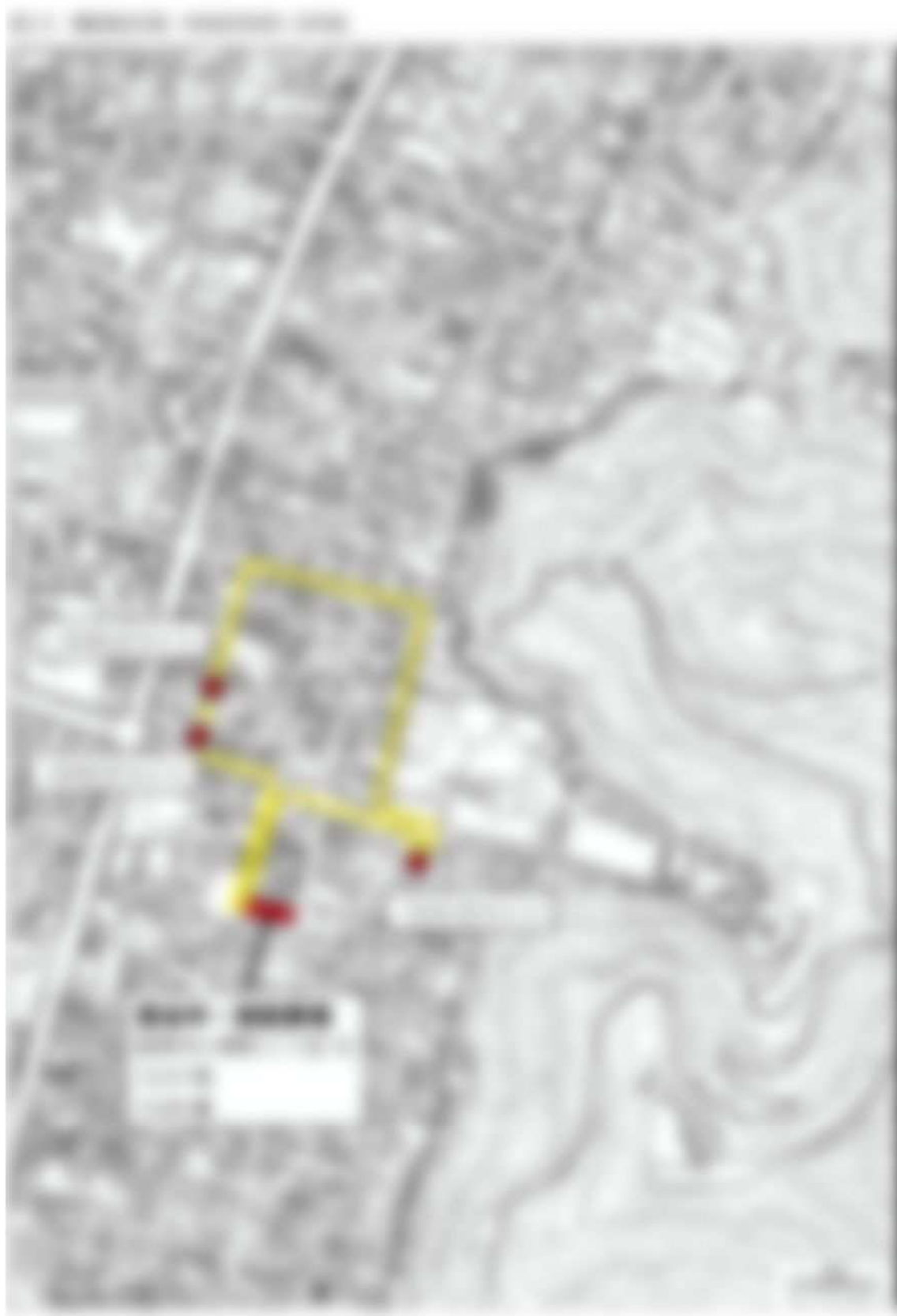








写真 2-16 読書会 中央小学校
（市立中央小学校）



写真 2-17 読書会 立花小学校
（市立立花小学校）



写真 2-18 読書会 豊川小学校（立花小学校）
（市立豊川小学校）



写真 2-19 読書会 立花小学校
（市立立花小学校）



写真 2-20 伊豆市立豊川小学校
（市立豊川小学校）



写真 2-21 伊豆市立豊川小学校
（市立豊川小学校）



(四) 踊車とボーイスカウト岐阜第十六団

1 踊車と曳行団体の変遷

踊車は、現存する岐阜まつりの山車の中で唯一名古屋型ではなく、屋台状の形状をしている。からくり人形を持たず、屋形の上層に三方と槌が乗せられている。

踊車の建造年代や由来は資料がなく不詳である。もとの所有は、矢島町とも小熊町ともいわれているが、昭和二十五年（一九五〇）四月四日付の新聞記事に、「小熊町」の招き札をかけた踊車の写真が掲載されており、以後小熊町の山車の曳行に関する記事が見られることや、山車と同時に引き継がれた大太鼓の収納箱に「小熊町」の墨書があることから、少なくとも昭和二十五年以降は小熊町が曳いていたことが言えそうである。

小熊町が確実に山車を曳いていたことが最後にわかるのは昭和四十二年である（注9）。その後同四十五年には神賑会（氏子による組織）が曳いた。（五九頁参照）神賑会は、お囃子など担い手不足が深刻化し、昭和六十三年にボーイスカウト岐阜第十六団に踊車を引き継ぎ、現在にいたっている。

なお、岐阜まつりの宵宮において、例年踊車が四台の山車の先頭を切って伊奈波神社に入るようになっていたが、これはかつて踊車を担った神賑会が伊奈波神社の氏子組織であるからといわれている。

2 ボーイスカウト岐阜第十六団

ボーイスカウト岐阜第十六団（以下、ボーイスカウト）は、岐阜小校区、明郷小校区など、おもに旧市街地を中心としたエリアの小学・高校生の団員からなる。お囃子は団員の小学生が担当し、保護者らが山車を曳く。山車運営に必要な経費は、伊奈波神社からの補助金のほかは、ボーイスカウトの運営費から支出されている。

なお、金華地区などに在住の団員がほかの山車の担当に当たった場合は、そ

ちらを優先することになっている。

1. The first step is to identify the problem or question that needs to be answered. This involves understanding the context and the specific requirements of the task.

[illegible][illegible]

Table 1

Table 1

www.elsevier.com/locate/jmb

1. 1990年12月1日以前，在《民法通则》施行以前，民事行为能力的确定标准适用《民法通则》施行前的有关规定。

1. The first step is to identify the problem or question that needs to be answered. This involves understanding the context and the specific requirements of the task.

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd



写真 3-12 タニの宮祭りの旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）



写真 3-13 旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）



写真 3-14 旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）



写真 3-15 旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）



写真 3-16 旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）



写真 3-17 旗燈籠（旗灯籠）
（岐阜市東山地区）

(五) 岐阜神輿連

1 岐阜神輿連

岐阜神輿連(以後、神輿連)は、宵宮への参加を行う神輿の団体で、平成七年(一九九五)に発足した。神輿連の設立の目的は、「①岐阜まつりへの参加・寄与、②神輿を通して楽しむための情報収集と発信、③神輿を通じてお互いの親睦を計る」で、岐阜まつり宵宮の活性化を願うものであった。結成に先立って行われた設立準備会では、「金華神輿」、「木造「町神輿」」、「岐阜フアツション連合会青年部」、「馬「九會」」、「岐阜代官所」、「めばえ会」、「岐阜睦神輿」、「長良高見神輿」、「岐阜流通団地」(いずれも名称は当時のもの)の九団体が参加した。

令和七年現在では、「金華神輿」、「木造「町神輿」」、「金神社神輿奉賛会 岐阜睦」(以下、岐阜睦)、「女神輿 岐阜心女」(以下、岐阜心女)、「神輿愛好会 葛」、「岐阜祭絆會」、「岐阜 あばれる」(漢字は造字で糸へんに「装」)、「加納天満宮神輿会 神加勢」の八団体が所属している。このうち、「岐阜 あばれる」は実際に神輿を担ぐことはなく、裏方として神輿の練り込みの運営のサポートに当たった。

2 岐阜神輿連と「岐阜まつり神輿パレード」

岐阜神輿連に加盟している神輿団体のうちいくつかは、道三まつり初日に行われる「岐阜まつり神輿パレード」にも参加している。令和七年は、岐阜心女、岐阜祭絆會、岐阜睦が参加している。このうち、岐阜睦は、令和五年より主催者としてパレードの運営を担っている。

3 岐阜神輿連のこれから

神輿連に所属する団体は神輿愛好家の集まりで、居住地域を限定せず構成しているところが多い。一方、金華神輿や木造「町神輿」は、元々地域住民が主体となっているため、人口の減少とともに担ぎ手や裏方などの人員不足が課題

となっている。実際に、木造「町神輿」は担ぎ手が集められなかったために、令和五年の練り込みを断念した経緯がある。そこで、翌年に初めて公募制を実施し、担ぎ手を確保することに成功し、まかないを従来は自治会の班長や女性たちが手作りで準備していたまかないを買い出し形式に変更して負担を軽減させた。また、「金華神輿」では、従来は回覧板にて募集案内を行っていたのを、令和七年にはQRコードをつけたチラシを全戸配布して周知を行った結果、初参加の応募もあった。このように、神輿の担ぎ手・運営不足解消のための取り組みが始まった。



写真 3-27 宵宮に向かう「岐阜睦」の神輿
(令和七年四月五日)



第五節 むすびにかえて

岐阜まつりを支えている組織は、神社が主体のものと、氏子など地域の団体が主体となっているものに大別できる。伊奈波神社では、宮司等の神社職員と、氏子総代からなる岐阜祭実行委員会によって重要事項の決定を行っていた。

地域の団体では、宵宮を運営する宵宮実行委員会、山車・神輿を運営する各団体が挙げられる。山車の曳行は、安宅車、清影車は金華安宅車支援会、清影車からくり保存会が支援する形で輪番制を採用し、若戎車と踊車は岐阜若戎車奉曳会、ボーイスカウト岐阜第十六団といった特定の団体が行っている。神輿については、岐阜神輿連が主体となつて、各神輿団体の支援を行っていた。

これら地域の団体の多くには、人的または経済的な不足といった課題が見られるが、後継者育成を意識したお囃子・からくりの稽古や、新規参加者の募集方法の見直しなど、それぞれの特色を出しながら持続可能なものにするよう取り組み姿が明らかになった。

(注)

(注1) 『金華史誌』は嘉永年間、『2018岐阜まつり―伊奈波神社例大祭奉賛―岐阜市重要有形民俗文化財 金華安宅車奉曳行事ガイドブック』は天保五年(一八三四)および弘化元年(一八四四)の伝承を挙げている。

(注2) 岐阜日日新聞 昭和三十七年(一九六二)四月三日四面

(注3) 岐阜日日新聞 昭和四十二年四月五日十二面記事には「本町五」、同新聞翌四十三年

四月四日五面記事には「金華」と記載されていることによる。

(注4) 伊奈波神社『昭和四拾六辛亥年 社務日誌』による。

(注5) 岐阜日日新聞 昭和三十五年四月四日六面

(注6) 岐阜日日新聞 昭和四十二年四月五日五面

(注7) 岐阜日日新聞 昭和四十三年四月四日五面

(注8) 岐阜日日新聞 昭和四十三年四月四日五面、同四十五年四月五日十五面

(注9) 岐阜日日新聞 昭和四十一年四月四日五十一面

(参考文献)

特定非営利活動法人わいわいハウス金華編 『ふるさと岐阜・魅力発見大作戦 岐阜町金華の誇り』 岐阜市歴史博物館 二〇〇九年

金華一二三六編 『わたしたちの子供の頃の金華の町』 岐阜大学地域科学部監修 二〇一〇年

林佑和三、佐藤哲雄編 『加納天満宮誌』 加納天満宮誌出版委員会 二〇〇五年

小野崎隆賢、伊深民俗研究所 『岐阜若戎車 奉曳資料集 第二集 山車囃子』 岐阜若戎車奉曳会 二〇二三年

小野崎隆賢、伊深民俗研究所 『岐阜若戎車 奉曳資料集 第二集 役職・衣裳』 岐阜若戎車奉曳会 二〇二二年

伊藤泰雄 『神輿大好き 岐阜のまちに神輿が復活するまで』 伊藤泰雄デザイン室 二〇一五年